

生き

まちのお寺の学校

松村 和順

▼上

「みなさん、幽霊って見たことありますか？ コツをつかめば誰でも見られるようになりますよ」

これは、私たちが運営している現代版の寺子屋プロジェクト「まちのお寺の学校」で行われている「普段着の仏教講座」の一節です。幽霊という言葉にひるむ参加者たちに、講師の僧侶・早島英観さん(三毛)の名調子が続きます。

「幽霊の姿は、髪がバサツと後ろになびいて、手が前に出て、足がないですよ。それは、過去に起きたことに後ろ髪引かれて後悔し、未来を恐れて手が頼りなく前に出て、その結果、現在の地に足がついていないことを表しています。実は幽霊の姿は、過去や未来の思い通りにならないことに心奪われ、今すべきことに心を向けることができない状態、つまり、心ここにあらずになっている私たちの心の状態を表しているんです」

私は、この話を初めて聞いたとき、思わず膝を打ちました。「最近うまくいか

ない事ばかりだな」なんて思っている自分は、まさに幽霊だったわけです。幽霊のままでは、仕事も遊びも恋もうまくいくわけがありません。

さらに、早島さんの話は続きます。「仏教は、今・ここ・私に対してしっかりと気づきを向け、地に足のついた心の状態になるための理論と実践方法なんです」。多くの参加者にとっ



が必要でした。当時、私の仏教のイメージといえば、「ありがたい仏像に手を合わせて自分のお願いをする」というようなものでした。そんな具合ですから、自分と仏教の接点を感じた

まつむら・かずのり 1973年、長野県生まれ。一般社団法人「寺子屋ブツダ」代表理事。ドキュメンタリー映画などの映像演出を経て、2010年から、宗派を超えた僧侶たちと、お寺を身近で楽しくて温かい場所にしようと「寺子屋ブツダ」の活動を開始。お寺のお寺子屋活動をサポートする「まちのお寺の学校」を全国に展開している。

心を調える自分のための時間

人間的成長の場

ては仏教と初めて対面する瞬間なのではないかと思えます。

私は、もともと映像の演出が生業で、取材対象としてお寺や仏教と出会いました。お寺の空間は、非日常の静謐な情景に溢れていて、取材対象としてとても魅力的でした。

一方、仏教の方は、なかなかイメージがつかめず、魅力を感じるには少し時間

が興味関心は、私だけにとどまらず、当時、私と一緒に働いていた若いスタッフたちにも広がっていました。

ことはありませんでした。

ところが、若く熱意のあるお坊さんたちから、仏教が人の心にフォーカスしたもので、人がイキイキと生きるために説かれたものだと教えてもらうことで、仏教のイメージが大きく変わりました。自分に成長のきっかけを与え続けてくれるもの。イチ押しの一ヶてるものに变化したのです。

そして、その仏教に対する

た。

そこで、三十代の仕事仲間たちが興味を持つのであれば、学生にも、ママやパパにも、子供たちにも、伝えてみたいと、宗派を超えたお坊さんたちと共に活動を開始しました。

「まちのお寺の学校」は、お寺を地域の学びの場にしようというもので、全国のお寺と共に展開しています。「お寺と市民の協

働」がキーワードで、お坊さん以外の講師も、ヨガ講師、書道家、彫刻家、哲学者、落語家、医師、ミュージシャンなど多彩です。

現在、東京の十五力寺では、年間のべ六千人以上の方々が会社帰りや休日の時間を使って、自分のための有意義な時間を過ごしています。

「まちのお寺の学校」がスタートし三年が経ちますが、最近ようやく、魅力的なお寺の共通点が見えてきました。それは、お寺を「人間の成長の場」として捉えて活動をしているという事です。お寺は、自分の心を調える場であり、より良く生きるための気づきを得る場であり、良き人のつながりができる場なのだと思います。死と向き合うという事も、人が成長する上でとても重要なことではないかと思えます。

こうした人間的成長の場が、職場や学校でもなく、家庭でもない場にあることで、私たちは日常から少し離れて、自分をニュートラルに戻すことができるのではないのでしょうか。皆さんもお寺で、自分のための大切な時間を過ごしてみたいかがでしょうか。

のは五月...と。しか...る請書の...日)を無...戦は必至...第二次...四境戦争...州の四方...かれたこ...大島口...海)での...戦。長州...奮戦によ...勝した。...原とおな...井伊勢が...洋式軍服

◆がん患者・家族語らいの会 8月5日午後1時半~4時半、中央区築地3の15の1、築地本願寺講堂。議題

短 信

◆薬研堀不動産院・納涼講談